

#### 4 文献

- 1) Watanabe M. Factors related to Vital Exhaustion among Japanese employed men. 2nd ICOH International conference on psychosocial factors at work (Abs) 2005; s156
- 2) 渡邊美寿津, 堀礼子, 坪井宏仁, 岩尾智, 入江正洋, 小林章雄. Vital Exhaustion Scale 尺度を用いて測定した男性勤労者の疲労症状に関連する要因の検討. 産業衛生学雑誌. 2003; 45: s281 (第76回日本産業衛生学会, 山口)
- 3) 堀礼子, 渡邊美寿津, 入江正洋, 岩尾智, 坪井宏仁, 堀沢六郎, 小林章雄. 教職員の Vital Exhaustion と疾病休業. 産業衛生学雑誌. 2002; 44: s665. (第75回日本産業衛生学会, 神戸)
- 4) 渡邊美寿津, 竹内清美, 古井景, 堀沢六郎, 小林章雄. Vital Exhaustion に関する検討. 第7回日本行動医学会抄録集. 2001; s46
- 5) Watanabe M, Takeuchi K, Furui H, Tsuboi H, Kobayashi F. Vital exhaustion among schoolteachers in Japan. The 6th international congress of behavioral medicine. 2000; vol7: s127
- 6) 渡邊美寿津, 竹内清美, 古井景, 堀沢六郎, 赤松康弘, 坪井宏仁, 杉山由樹, MM イスラム, 小林章雄. Vital Exhaustion 高値の意義—1年後の follow up 面接から—. 産業衛生学雑誌. 1999; 41: s217. (第11回産業神経行動学研究会)
- 7) 渡邊美寿津, 竹内清美, 古井景, 赤松康弘, 渡辺丈眞, MM イスラム, 木村みつる, 小林章雄. 女性教職員の疲労とその背景. 産業衛生学雑誌. 1998; 40: s228. (第10回産業神経行動学研究会)
- 8) 渡邊美寿津, 赤松康弘, 古井景, 渡辺丈眞, MM イスラム, 小林章雄. Vital Exhaustion とその関連要因に関する検討. 産業衛生学雑誌 1998; 40: s 683. (第71回日本産業衛生学会)
- 9) 渡邊美寿津, 赤松康弘, 古井景, 渡辺丈眞, MM イスラム, 小林章雄. 勤労者の疲労困憊症状に関する検討. 産業衛生学雑誌. 1998; 40: s48 (平成9年度東海地方会学会)
- 10) Watanabe T, Sugiyama Y, Sumi Y, Watanabe M, Takeuchi K, Kobayashi F, Kono K. Effects of vital exhaustion on cardiac autonomic nervous functions assessed by heart rate variability at rest in middle-aged male workers. Int J Behav Med. 2002; 9: 68-75.

### 3 過重労働対策に関する心理ストレス反応の評価のための質問票 の項目についての調査研究

### 3 過重労働対策に関する心理的ストレス反応の評価のための 調査票の項目についての調査研究

永野千景、川瀬洋平、佐々木直子、筒井隆夫、堀江正知  
産業医科大学産業生態科学研究所 産業保健管理学

#### 1 背景

平成 16 年度厚生労働科学研究事業「事業場における過重労働による健康障害防止対策のための具体的方策に関する研究（労働安全衛生総合研究）」報告書で述べたように、労働の過重性を決定する要因としては図 1 のように労働時間だけでなく、様々な労働負荷が含まれ、過重労働による健康障害および過労死につながる可能性が高いのは、その両方を有する者である。

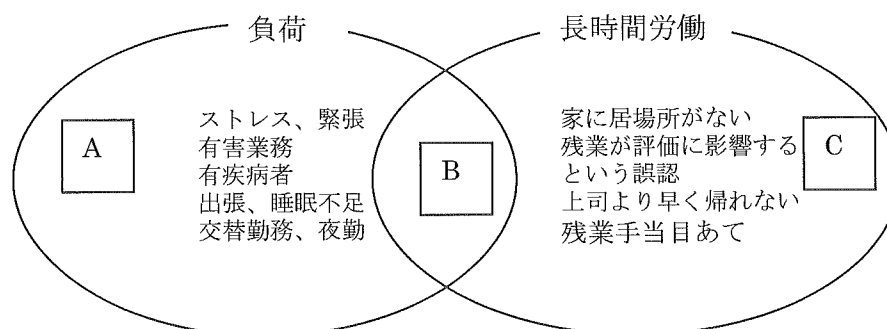


図 1 過重労働の要因

過重労働による健康障害および過労死防止のためには、これらの諸要因についてハイリスク者を選別しなければならない。その実際の方法として質問票が用いられる。

改正労働安全衛生法(平成 18 年 4 月 1 日施行)においては、事業者が前月の法定労働時間外の労働時間に加え、疲労の蓄積の有無、健康上の不安の有無、前月の面接指導の受診の有無といった情報から医師による面接指導の対象を抽出しなければならないとしており、面接指導の対象者の基準として労働時間だけでなく労働者の自覚症状を重要視している。よって労働時間の正しい把握に加え、自覚症状の調査が必要であり、この場合、実務的には質問票が用いられる。

また、医師による面接指導における確認事項として、労働者の勤務の状況、疲労の蓄積の状況、その他心身の状況があげられており、面接指導の場面においても、ハイリスク者を適確に抽出するために質問票が用いられる。

このように過重労働対策としての面接指導においても質問票は①長時間労働者の中から面接指導対象者を選別すること、②面接指導対象者の中からハイリスク者を抽出すること、の 2 段階で使用されることが予想される（図 2）。

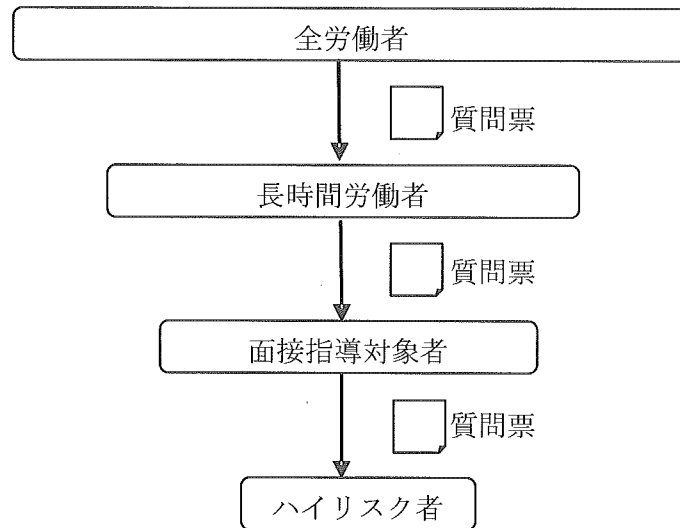


図2 過重労働対策における質問票を利用する可能性のある場面

既存のほとんどの質問票はその目的、対象、基礎概念、評価法、妥当性、信頼性などが統計学的に明らかにされている。質問票の特徴として、その回答は自己自由記入か選択式か、面接における記入（構造化面接）かによって、またどのような状況における使用なのか、初回か2回目以降かといった様々な要因によって影響を受ける。過重労働対策に質問票を利用するに当たってはこれらのことを正確に理解した上で適切な質問票を選択する必要がある。

## 1 目的

現在、医療現場や職場の健康管理において利用されている心理的ストレスおよび健康状態に関する質問票の設問内容について調査し、過重労働対策における利用方法、有用性について明らかにする。

## 2 方法

「産業医のための過重労働による健康障害防止マニュアル(産業医学振興財団)」に「わが国の企業において使用されることに多い心理的ストレス反応の評価尺度」として p131 に一覧表として表記のある調査票に加え、CRS、職業性ストレス簡易調査票、労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト、そして過重労働面談マニュアルに採用されている質問項目を調査し(表 1)、各質問項目に属性キーワードをつけ、分類した。

表 1 心理的ストレス反応の評価のための調査票

質問票	標的症狀	項目数	%
自覚症しらべ	ねむけ・だるさ、注意集中困難、局在した身体違和感	25	3.1
Profile of Mood States (POMS)	不安・緊張、抑鬱、落ち込み・怒り、敵意、活気、疲労、混乱	65	7.9
State-Trait Anxiety Inventory (STAI)	状態不安	20	2.4
Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)	抑鬱症狀（身体症狀、うつ感情、対人関係、ポジティブ感情）	20	2.4
Self Depression Scale (SDS)	抑うつ症狀	20	2.4
The General Health Questionnaire (GHQ)	身体症狀、不安と不眠、社会的機能不全、重いうつ	60	7.3
Todai Health Index (THI)	心身の自覚症狀	130	15.9
The Cummulative Fatigue Symptoms Index (CFSI)	心身の自覚症狀	81	9.9
Cornell Medical Index (CMI)	身体的自覚症狀、精神症狀	218	26.6
Kurihama alcoholism screenig test (KAST)	アルコール依存症、または問題飲酒行動	14	1.7
Cut down,Annoyed by criticism,Guilty feeling,Eye-opener (CAGE)	アルコール依存症、または問題飲酒行動	4	0.5
Available of the Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT)	アルコール依存症、または問題飲酒行動	12	1.5
Carroll Self Rating Scale for Depression (CRS)		52	6.3
職業性ストレス簡易調査票		57	7.0
長時間労働による健康障害防止のための医師の面接指導チェックリスト（案）		21	2.6
労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト		20	2.4
合計		819	100

### 3 結果

質問項目は合計 819 項目であり、そのうち 666 項目(81.3%)が自覚症状に関するものであった。仕事に関連する設問は 80 項目(9.8%)であり、そのうち 48 項目(49.0%)が職業性ストレス簡易調査票、労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト、過重労働面談マニュアルに採用されている質問票の設問であった。

表 2 調査票の設問内容の分類

質問項目	度数	%
自覚症状	666	81.3
仕事	80	9.8
既往歴	33	4.0
生活習慣	27	3.3
家族歴	12	1.5
その他	1	0.1
合計	819	100

大分類としての「自覚症状」、「仕事」、「生活習慣」の項目について、それぞれさらに内容を小分類したものを表 3-5 に示す。

表 3 自覚症状に関する設問の小分類

自覚症状	項目数	%
精神症状	357	53.6
身体症状	221	33.2
身体・精神症状両方	44	6.6
睡眠	34	5.1
アルコール	10	1.5
合計	666	100

表 4 仕事に関する設問の小分類

仕事	項目数	%
精神症状	26	32.5
仕事内容	23	28.8
人間関係	21	26.3
身体・精神症状両方	6	7.5
身体症状	3	3.8
睡眠	1	1.3
合計	80	100

表 5 生活習慣に関する設問の小分類

生活習慣	項目数	%
アルコール	12	44.4
食習慣	8	29.6
その他	3	11.1
運動習慣	2	7.4
喫煙	2	7.4
合計	27	100

自覚症状に関する設問の内容は精神症状に関するものが多く、53.6%(357 項目)を占めていた。次いで身体症状について問う設問が多かった(221 項目、33.2%)。体調や食欲を問うもの等を身体、精神症状いずれにも分類できない項目とした。睡眠に関する設問は 34 項目で 5.1%であった。アルコールについての設問は 28 項目中 26 項目(92.9%)が KAST、CAGE、AUDIT の設問である。仕事に関する設問でも精神症状に関するものが最も多く、80 項目中 26 項目を占めていた(32.5%)。次いで仕事内容(23 項目、28.8%)、人間関係(21 項目、26.3%)に関するものが多かった。睡眠に関する設問は 1 項目のみであり(1.3%)、仕事中の眠気を問うものであった。

生活習慣に関する設問は 27 項目のみであり、アルコールに関するものが最も多かった(12 項目、44.4%)。やはりそのほとんど(12 項目中 10 項目、83.3%)が KAST、CAGE、AUDIT の設問であった。その他、食習慣、運動習慣、喫煙習慣に関する設問があった。睡眠に関する設問は「生活習慣」のカテゴリには分類しなかった。

表 6 に各質問票の属性分類を示す。

表 6-1 自覚症状しらべ

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	25
小分類	身体症状	13
	精神症状	6
	身体・精神症状両方	4
	睡眠	2
設問数		25

表 6-2 Profile of Mood States (POMS)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	65
小分類	精神症状	63
	身体・精神症状両方	2
設問数		65

表 6-3 State-Trait Anxiety Inventory (STAI)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	20
小分類	精神症状	20
設問数		20

表 6-4 Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	25
	仕事	1
小分類	精神症状	18
	身体・精神症状両方	1
	睡眠	1
設問数		20

表 6-5 Self Depression Scale (SDS)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	18
	仕事	2
小分類	身体症状	4
	精神症状	13
	身体・精神症状両方	2
	睡眠	1
設問数		20

表 6-6 The General Health Questionnaire (GHQ)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	60
小分類	精神症状	60
設問数		60

表 6-7 Todai Health Index (THI)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	115
	生活習慣	9
	仕事	4
	既往歴	1
	その他	1
小分類	身体症状	58
	精神症状	52
	身体・精神症状両方	6
	食習慣	4
	その他	3
	睡眠	2
	アルコール	1
	運動習慣	1
	既往歴	1
	喫煙	1
	人間関係	1
設問数		130

表 6-8 The Cumulative Fatigue Symptoms Index (CFSI)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	68
	仕事	13
小分類	身体症状	14
	精神症状	51
	人間関係	7
	身体・精神症状両方	4
設問数		81



表 6-9 Cornell Medical Index (CMI)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	167
	既往歴	25
	家族歴	12
	生活習慣	8
	仕事	6
小分類	身体症状	115
	精神症状	44
	既往歴	25
	家族歴	12
	身体・精神症状両方	9
	睡眠	4
	食習慣	4
	人間関係	1
	アルコール	1
	その他	1
	運動習慣	1
	喫煙	1
	設問数	

表 6-10 Kurihama Alcoholism Screening Test (KAST)

分類	属性	設問数
大分類	生活習慣	6
	自覚症状	3
	既往歴	3
	仕事	2
小分類	アルコール	10
	仕事内容	1
	身体・精神症状両方	1
	既往歴	1
	睡眠	1
設問数		14

表 6-11 Cut down, Annoyed by criticism, Guilty feeling, Eye-opener (CAGE)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	3
	生活習慣	1
小分類	アルコール	4
設問数		25

表 6-12 Available of the Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	5
	既往歴	4
	生活習慣	3
小分類	アルコール	12
設問数		25

表 6-13 Carroll Self Rating Scale for Depression (CRS)

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	52
	仕事	1
小分類	精神症状	29
	身体・精神症状両方	10
	身体症状	7
	睡眠	6
設問数		53

表 6-14 職業性ストレス簡易調査票

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	32
	仕事	25
小分類	精神症状	28
	身体症状	9
	人間関係	9
	仕事内容	8
	睡眠	1
	身体・精神症状両方	1
設問数		57

表 6-15 長時間労働による健康障害防止のための医師の面接指導 チェックリスト (案)

分類	属性	設問数
大分類	仕事	15
	自覚症状	6
小分類	精神症状	7
	人間関係	7
	仕事内容	6
	睡眠	1
設問数		21

表 6-16 労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト

分類	属性	設問数
大分類	自覚症状	12
	仕事	8
小分類	精神症状	8
	仕事内容	7
	睡眠	3
	身体・精神症状両方	2
設問数		20

## 5 今後の予定

今後はさらに小分類をするとともに、文献的検討をすすめ、これらの質問票の正しい使用法や過重労働対策のどのような場面で使用すると有用性があるか考察していく。

#### 4 長時間労働に関する最近の文献リストの構築

#### 4 長時間労働による健康障害に関する最近の文献リストの構築

筒井隆夫<sup>1</sup>、佐々木直子<sup>1</sup>、永野千景<sup>1</sup>、川瀬洋平<sup>1</sup>、堀江正知<sup>1</sup>、寶珠山 務<sup>2</sup>  
伊藤秀樹<sup>3</sup>、今井鉄平<sup>4</sup>、上原正道<sup>5</sup>、梶原隆芳<sup>6</sup>、加藤憲忠<sup>7</sup>、古河 泰<sup>8</sup>、横山 徹<sup>9</sup>

<sup>1</sup>産業医科大学産業生態科学研究所産業保健管理学

<sup>2</sup>産業医科大学産業生態科学研究所環境疫学

<sup>3</sup>ダイキン工業（株）

<sup>4</sup>松下電器産業（株）健康管理室

<sup>5</sup>ブラザー健康保険組合保健推進センター

<sup>6</sup>コニカミノルタ東京サイト日野健康管理センター

<sup>7</sup>新日本製鐵（株）君津製鐵所診療所

<sup>8</sup>味の素（株）川崎健康推進センター

<sup>9</sup>北陸電力（株）富山健康管理センター

##### 1 はじめに

長時間労働は、心血管系疾患や精神疾患の発症要因になると考えられており、これまで、長時間労働と疾患との関係について多くの文献が報告されている。これらの文献のレビューが、2002年から2003年にかけて、寶珠山<sup>1)</sup>、和田<sup>2)</sup>、Hulst<sup>3)</sup>らにより記されており、長時間労働と疾患との関係が検討されている。これらのレビューによると、長時間労働と疾患との関係は、まだ、明らかでない部分が多く、今後の解明が期待されている。そこで、これらのレビューが検討していない可能性がある最近の文献を整理してデータベース化することは重要であると考え、平成16年度の厚生労働科学研究において、1999年1月1日から2004年9月8日までに発表された文献を検索し、86文献をリスト化した。本研究では、このリストに2005年11月12日までに発表された文献を追加し、これらの文献を収集するとともに内容を再度確認し、項目ごとの整理を行った。

##### 2 目的

長時間労働と健康障害との関係を示した最近の文献を検索して、内容を整理し、データベース化すること。

##### 3 方法

###### 1) 日本語文献の検索

データベースは、医中誌 Web を使用した。検索式は、「長時間労働 OR 過重労働」とした。平成16年度の研究における検索期間が、1999年1月1日から2004年9月8日までであったので、本研究は、2004年1月1日から2005年11月12日までの文献を検索した。なお、平成16年度の研究で検索された文献は除いた。

###### 2) 英語文献の検索

データベースは、MEDLINE、OSH-ROM、PubMed、Cochrane Library を使用した。検索式

は、Hulst らの検索式を参考にして、「long working hours OR long work hours OR long working time OR overwork OR work over load」とした。なお、平成 16 年度の研究で、MEDLINE については 1999 年 1 月 1 日から 2004 年 9 月 8 日まで、OSH-ROM、PubMed、Cochrane Library については 1999 年 1 月 1 日から 2004 年 11 月 1 日まで、文献検索を実施していたため、本研究では、2004 年 1 月 1 日から 2005 年 11 月 12 日まで文献検索を実施して、平成 16 年度の研究で検索された文献と重複する場合はその文献を除外した。

### 3) 検索された文献の選定

検索された文献のタイトルや要旨より、①長時間労働が心血管系疾患の原因になる、②長時間労働に個人的な要因が加わると心血管系以外の疾患（精神疾患など）になる、③長時間労働が自殺に結びつく、という内容が推定される文献を選定した。平成 16 年度の研究で選定した 86 文献に、本研究で選定した文献を加え、これらの文献を収集した。収集された文献は、上記①から③の判定基準により内容を確認し、再度選定しなおした。

### 4) 選定された文献の整理

選定された文献の中で英語文献は、7 名の研究協力者に依頼して、①著者、②タイトル、③掲載誌、④デザイン、⑤目的、⑥ばく露指標、⑦結果指標、⑧比較指標、⑨実施国、⑩対象、⑪結果、⑫結論、⑬要約に分けて、内容を和訳して整理した。

## 4 結果

### 1) 日本語文献の検索結果

医中誌 Web では、方法で示した検索式で 75 件がヒットし、その中で、長時間労働と健康障害に関する文献は 9 件であり、すべて原著論文であった。

### 2) 英語文献の検索結果

MEDLINE では 36 件がヒットし、目的に該当する文献は 6 件であり、原著論文 5 件、レビューが 1 件であった。OSH-ROM では 35 件がヒットし、該当する文献は 7 件で、原著論文 3 件、解説 3 件、レビューが 1 件であった。PubMed では 82 件がヒットし、該当する文献は 12 件で、すべて原著論文であった。Cochrane Library では、3 件がヒットしたが、該当する文献はなかった。

### 3) 文献の選定

使用したデータベース間で重複した文献を 1 つにまとめてリスト化すると、全体で 26 文献となり、原著論文 21 件、解説 3 件、レビュー 2 件となった。また、3 種類のデータベースで検索できた文献が 1 件、2 種類のデータベースで検索できた文献が 6 件、1 種類のデータベースのみで検索できた文献が 19 件であった（参考資料 1 において、PubMed で検索された文献は Pub、MEDLINE で検索された文献は Med、OSH-ROM で検索された文献は OSH、医中誌で検索された文献は Ichu で示す）。平成 16 年度の研究で選定した 86 文献に今年度の文献 26 文献を加え、112 文献を収集した（参考資料 1 の 1 と 2）。収集された文献の内容を再度確認し、翻訳作業のため英語文献を選定すると、目的に該当した文献は 39 文献であった。これらの 39 文献は、原著論文 35 件、レビュー 4 件であった。

### 4) 文献の整理

7名の研究協力者に英語の原著文献35件の整理を依頼し、回答を得た(参考資料2)。その結果、これらの文献で、研究が実施された国は、日本が12件、アメリカが9件、韓国、イギリス、スウェーデンが2件ずつ、その他の国が7件であった。研究のデザインは、断面研究が21件、コホート研究が9件、記述研究が4件、症例対象研究が1件であった。研究対象は、医療職が9件、事務職が7件、技術職が5件、一般職が4件、製造職が2件、その他7件であった。研究内容は、労働時間に関する文献が19件、職場要因に関する文献が9件、疲労、心血管系疾患に関する文献が8件ずつ、ストレス、メンタルに関する文献が7件ずつ、睡眠に関する文献が6件、事故、日常生活、交代性勤務に関する文献が4件ずつであった(参考資料3)。

## 5 考察

長時間労働や過重労働と疾患との関係について記載された文献を検索・整理したが、文献の報告は、日本やアメリカが他の国に比べて多く、これらの国で長時間労働による健康障害が問題になっている可能性がある。研究のデザインは、断面研究が多く、現状の把握が主体になっていると考えられる。研究対象は、医療職が多く、特に研究医の長時間労働や看護職の交代性勤務による健康問題が課題とされていた。研究内容は、長時間労働に伴う精神的・肉体的ストレスと健康障害との関係が示されていたが、健康障害としては、疲労感や精神的変化、血圧や心電図の変化、睡眠障害などであった。しかし、長時間労働が心血管系疾患の発症に直接関与することを示したような文献はなかった。長時間労働と健康障害との関係には、上司からの支援など、職場の要因も影響することを示した文献が複数認められた。これらの文献より、長時間労働と健康影響との関係は、まだ、限られた知見しか得られておらず、今後も文献の収集の継続が必要であるとともに、この分野の研究の発展が期待された。

## 6 参考文献

- 1) 寶珠山 務(2003): 過重労働とその健康障害: いわゆる過労死問題の現状と今後の課題について. 産衛誌 45: 187-193
- 2) 和田 攻(2002): 労働と心臓疾患-“過労死”のリスク要因とその対策-. 産業医学レビュー 14(4): 183-213
- 3) van der Hulst M(2003): Long workhours and health. Scand J Work Environ Health, 29(3): 171-188

参考資料 1 長時間労働と健康障害に関する文献のリスト

- 1 平成 16 年度の研究で、1999 年 1 月から 2004 年 9 月まで検索した 86 文献を以下に示す。  
PubMed で検索した文献は Pub、MEDLINE で検索した文献は Med、OSH-ROM で検索した文献は OSH、医中誌で検索した文献は Ichu と示す。また、本研究で、整理、全文訳、または記事和訳に使用した文献は、それぞれ、整理、全文訳、または解説と示す。
- 1) Associations of length of employment and working conditions with neck, shoulder and arm pain among nursery school teachers.  
Ono Y, Imaeda T; Shimaoka M, Hiruta S, Hattori Y, Ando S, Hori F, Tatsumi A  
Ind Health. 40 (2): 149-58.  
2002 Pub Med OSH Ichu 整理
  - 2) Lower percentage of CD56+ cells associated with long working hours.  
Yasuda A, Iwasaki K, Sasaki T, Oka T, Hisanaga N  
Ind Health. 39 (2): 221-3.  
2001 Pub Med OSH Ichu 整理
  - 3) Regular overtime and cardiovascular functions.  
Park J, Kim Y, Cho Y, Woo KH, Chung HK, Iwasaki K, Oka T, Sasaki T, Hisanaga N  
Ind Health. 39 (3): 244-9.  
2001 Pub Med OSH Ichu 整理
  - 4) Association of working hours with biological indices related to the cardiovascular system among engineers in a machinery manufacturing company.  
Sasaki T, Iwasaki K, Oka T, Hisanaga N.  
Ind Health. 37(4): 457-63.  
1999 Pub Med OSH Ichu 整理
  - 5) Effect of working hours on cardiovascular-autonomic nervous functions in engineers in an electronics manufacturing company.  
Sasaki T, Iwasaki K, Oka T, Hisanaga N, Ueda T, Takada Y, Fujiki Y  
Ind Health. 37 (1): 55-61.  
1999 Pub Med OSH Ichu 整理
  - 6) Epidemiology of job stress and health in Japan: review of current evidence and future direction.  
Kawakami N, Haratani T



Ind Health. 37 (2): 174-86.

1999 Pub Med OSH Ichu

- 7) Long working hours and risk for hypertension in Japanese male white collar workers.  
Nakanishi N, Yoshida H, Nagano K, Kawashimo H, Nakamura K, Tatara K  
Journal of Epidemiology and Community Health 55(5): 316-22 (34 ref)  
2001 Pub Med OSH 整理
- 8) Working conditions and adverse pregnancy outcome: a meta-analysis  
Mozurkewich EL, Luke B, Avni M, Wolf FM  
Obstetrics and gynecology 95 (4): 623-35.  
2000 Pub Med OSH
- 9) Lifestyle and the development of hypertension: a 3-year follow-up study of middle-aged Japanese male office workers.  
Nakanishi N, Nakamura K, Ichikawa S, Suzuki K, Tatara K  
Occupational medicine 49 (2): 109-14.  
1999 Pub Med OSH 整理
- 10) Long working hours and health.  
Shields M  
Health reports 11 (2): 33-48(Eng)  
1999 Pub Med OSH 全文訳
- 11) Long working hours and subjective fatigue symptoms.  
Park J, Kim Y, Chung HK, Hisanaga N  
Ind Health. 39 (3): 250-4.  
2001 Med OSH Ichu 整理
- 12) Nurses' perception of their work environment, health, and well-being: a qualitative perspective.  
Geiger-Brown J, Trinkoff AM, Nielsen K, Lirtmunlikaporn S, Brady B,  
Vasquez EI  
AAOHN Journal 52(1): 16-22 (36 ref)  
2004 Pub Med 整理
- 13) Duty hours and pregnancy outcome among residents in obstetrics and gynecology.  
Gabbe SG, Morgan MA, Power ML, Schulkin J, Williams SB

- Obstetrics and gynecology 102 (5 Pt 1): 948-51.  
2003 Pub Med 整理
- 14) Effects of vital exhaustion on cardiac autonomic nervous functions assessed by heart rate variability at rest in middle-aged male workers.  
Watanabe T, Sugiyama Y, Sumi Y, Watanabe M, Takeuchi K, Kobayashi F, Kono K  
International journal of behavioral medicine 9 (1): 68-75.  
2002 Pub Med 整理
- 15) Mental health problems among young doctors: an updated review of prospective studies.  
Tyssen R, Vaglum P.  
Harv Rev Psychiatry. 39(3): 154-65.  
2002 Pub Med 全文訳
- 16) Work stressors and cardiovascular disease.  
Landsbergis PA, Schnall PL, Belkic KL, Baker D, Schwartz J, Pickering TG  
WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation (WORK), 17(3): 191-208  
(219 ref)  
2001 Pub Med 全文訳
- 17) It's about time and gender: spousal employment and health.  
Stolzenberg RM.  
AJS. 107(1): 61-100.  
2001 Pub OSH
- 18) Death by overwork  
White-P, Hamer-C  
Occupational health 54(1): 14  
2002 Med OSH 解説
- 19) Overwork and its health effects--current status and future approach regarding Karoshi  
Hoshuyama T  
Sangyo eiseigaku zasshi 45 (5): 187-93  
2003 Med Ichu
- 20) Analyses of work-relatedness of health problems among truck drivers by questionnaire survey

:Koda S, Yasuda N, Sugihara Y, Ohara H, Udo H, Otani T, Hisashige  
Sangyo eiseigaku zasshi 42 (1): 6-16  
2000 Med Ichu

- 21) EFFECTS OF WORKING HOURS ON CARDIOVASCULAR-AUTONOMIC NERVOUS  
FUNCTIONS IN ENGINEERS IN AN ELECTRONICS MANUFACTURING COMPANY.

Sasaki-T

Ind Health. 37(1): 55-61

1999 OSH Ichu

- 22) Burnout and work environments of public health nurses involved in mental health care.

Imai H, Nakao H, Tsuchiya M, Kuroda Y, Katoh T.

Occup Environ Med. 61(9): 764-8

2004 Pub

- 23) Fatigue severity, attributions, medical utilization, and symptoms in persons with chronic  
fatigue.

Torres-Harding SR, Jason LA, Taylor RR.

J Behav Med 25(2): 99-113

2002 Pub 整理

- 24) Burnout is 'cold turkey of the soul'

Nursing Standard Vol. 18 Issue 36: p8, 1/9p

2004 Med

- 25) Compassion fatigue: how to avoid it.

Wright B

Palliative Medicine 18 ( 1): p3, 2p

2004 Med

- 26) Impact of long working hours explored.

Lamberg L

the journal of the American Medical Association [JAMA] 292 (1): 25-26

2004 Med 解説

- 27) Perceived work overload and chronic worrying predict weekend-weekday differences in  
the cortisol awakening response.

Schlotz W, Hellhammer J, Schulz P, Stone AA

- Psychosomatic medicine 66 (2): 207-14  
 2004 Med 整理
- 28) Residents' Working Hours in a Consortium-Wide Surgical Education Program.  
 Mittal V, Salem M, Tyburski J, Brocato J, Lloyd L, Silva Y, Silbergleit A,  
 Shanley C, Remine S  
 American Surgeon 70 (2): p127, 5p, 4 charts  
 2004 Med 整理
- 29) Reducing work related psychological ill health and sickness absence: a systematic  
 literature review.  
 Michie S, Williams S  
 Occupational and Environmental Medicine 60(1): 3-9 (55 ref)  
 2003 Med 全文訳
- 30) A qualitative investigation of fatigue among healthy working adults.  
 Aaronson LS, Pallikkathayil L, Crighton F  
 Western Journal of Nursing Research 25(4): 419-33 (37 ref)  
 2003 Med 整理
- 31) Exploring variables among medical center employees with injuries: developing  
 interventions and strategies.  
 Brown ND, Thomas NI  
 AAOHN Journal 51(11): 470-81 (32 ref)  
 2003 Med 整理
- 32) OCCUPATIONAL SKIN DISEASES IN NURSES.  
 Telksniene R, Januskevicius V  
 International Journal of Occupational Medicine & Environmental Health 16 (3): 241-248  
 2003 Med
- 33) Long work hours increase heart attack risk  
 Occupational Health 54(9): 4  
 2002 Med 解説
- 34) A survey of forest workers in New Zealand. Do hours of work, rest, and recovery play a  
 role in accidents and injury?  
 Lilley R, Feyer AM, Kirk P, Gander P